

銚子地域犬吠層群小浜層中の前期更新世テフラとの対比に基づく白河火砕流堆積物群の層序の再検討

Re-examination on stratigraphy of Shirakawa Pyroclastic Flow Deposit Group using correlation of Pleistocene tephras

村田 昌則^{1*}, 鈴木 毅彦¹

Masanori Murata^{1*}, Takehiko Suzuki¹

¹首都大学東京 都市環境学部

¹Tokyo Metropolitan Univ.

白河火砕流堆積物群(吉田・高橋, 1991)は, 前期更新世に東北日本弧南部の複数のカルデラ火山から噴出した大規模火砕流で, 白河・会津地域に広く分布している。山元ほか(1996)は, 吉田・高橋(1991)の層序を一部見直し, 上位から天栄火砕流堆積物, 西郷火砕流堆積物, 南倉沢火砕流堆積物, 芦野火砕流堆積物, 隈戸火砕流堆積物に区分した。カルデラ周辺域では侵食による欠損や, 各々の火砕流堆積物が厚いため, 各層序を検討するのが難しい場合がある。そこで今回その層序を再検討するために, 各火砕流流出にともなう降下火山灰層が他の年代指標とともによく保存されている関東平野東縁部銚子地域に分布する犬吠層群小浜層に着目した。

火山ガラスと斜方輝石の主成分化学組成などの記載岩石学的性質から, 白河火砕流堆積物群の芦野火砕流堆積物は, 犬吠層群小浜層中に挟在するOb5c(酒井, 1990)と対比される。Ob5cは房総半島上総層群黄和田層中のKd8に対比されている(藤岡・亀尾, 2004)。Ob5cの直上に石灰質ナンノ化石基準面9(1.27Ma; 佐藤ほか, 1999)が位置する(藤岡・亀尾, 2004)ことから芦野火砕流堆積物の噴出年代はおよそ1.3Ma前後と推定できる。

さらに, 会津若松市赤井付近において芦野火砕流堆積物の下位に層位をもつ火砕流堆積物は, 同様にOb5cの下位約4.8mにある未命名のテフラと対比される。山元ほか(2005)は, この付近で芦野火砕流堆積物の下位に隈戸火砕流堆積物を記載しているが, 火山ガラスの主成分化学組成などの記載岩石学的性質が異なることから別の火砕流堆積物であると考えられる。Ob5cの下位約4.8mにある未命名のテフラは房総半島上総層群黄和田層中のKd18に対比されている(村田・鈴木, 2007)。Ob5cの下位約4mに石灰質ナンノ化石基準面10(1.45Ma; 佐藤ほか, 1999)が位置する(藤岡・亀尾, 2004)ことから, この火砕流堆積物の噴出年代はおよそ1.46Ma前後と推定できる。また, 隈戸火砕流堆積物がOb5cの下位約10.6mにあるSr-Kmdテフラ(1.51Ma; 鈴木・村田, 2008)と対比されている。上記より, 会津若松市赤井付近に産出する火砕流堆積物の層位は, 芦野火砕流堆積物と隈戸火砕流堆積物の間に位置し, それに伴う降下火山灰層は関東地方の複数地点で検出できる。

キーワード:白河火砕流堆積物群,犬吠層群

Keywords: Shirakawa Pyroclastic Flow Deposit Group, Inubo Group